令和６年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

学校番号	１０５

自己評価

学校教育目標	・夢の実現に向け、自ら学び自ら考え、生き生きと豊かに表現できる児童生徒の育成 ・自他を尊重し、学校や地域で生き生きと生活できる児童生徒の育成 ・運動に親しみ、心身ともに健康で、明るく元気な児童生徒の育成

評価する領域・分野	教育活動・学習指導：生活支援（※番号は学校評価のアンケート項目） 17：学校では、体罰の防止に努めている。 18：学校では、心のアンケート等を行って児童生徒の話に耳を傾け、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。
現状及びアンケートの結果分析等	・２項目とも、８割以上の高評価を得ているものの、「わからない」という回答が１５％程度となっている。 ・項目１７については、職員研修等を行っているが、保護者に周知をしてきていないことが原因と考えられる。 ・項目１８については、年度当初に「生徒指導たより」等を通じて、保護者に周知し、アンケートを実施した際には、担任を通じて連絡帳で伝えるとともに、懇談等を利用して結果の報告等も行うとしているが、不十分であったことが考えられる。今後は、「心のアンケート」は「すぐーる」のアンケート機能を使って行うことで、保護者にも実施について周知できるのではないかと考えている。「心の健康調査」は担任が直接児童生徒に対して行い、保護者と共有をしていきたい。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)児童生徒の変化に気付き、変化に応じた支援の共有を図り、児童生徒の成長につなげる。 (2)社会自立を目指した基本的生活習慣や人間関係の確立を図る。 (3)スクールバスの円滑な運行に努める。
重点目標を達成するための校内組織体制と具体的取組	・部会やチーフ会、ケース会議等で児童生徒の情報共有を行い、支援の在り方や今後の方向性等について職員間で共有する。 ・スクールバスの添乗員等と連携を密にし、職員間での情報共有を図る。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・会議等を通して児童生徒の変化に応じた支援の共有を図ることができたか。 ・社会自立を目指した基本的生活習慣や人間関係の確立を図るための生活指導、児童生徒会活動ができたか。 ・スクールバスの円滑な運行ができたか。

評価の視点	評価
①　児童生徒の変化に応じた支援と情報共有。	A　[B]　C　D
②　社会自立を目指した基本的生活習慣や人間関係の確立。	A　[B]　C　D
③　スクールバスの円滑な運行	[A]　B　C　D
取組状況・実践内容の成果と課題（○成果・▲課題）	総合評価
○部会やチーフ会ごとに児童生徒の情報共有を行い、支援の在り方や今後の方向性等について職員間で共有することができた。今後も一部の職員で抱え込まない体制づくりと職員一人一人の報連相の意識を高めていくことが大切である。 ○障害性やこれまでの成育歴が影響し、確立するまでには至らない部分はあるが、高等部卒業後を見越した支援を行うことができた。	A　[B]　C　D

▲各部の卒業までにやるべきこと、やっておくとよいことを明確にし、先送りにしない意識を全職員で高めていく必要がある。 〇運転手、添乗員と連携し、その都度対応をとることができた。引き続きスクールバスに関わる諸問題を担当だけでなく、各職員が添乗員と連携、協力できる体制ができるとよい。 〇校外学習申込書の様式を変更し、年間実施計画と照らし合わせることで計画的に運行できた。	
来年度に向けての 改善方策案	・まずは学年レベルで職員間の意思疎通、情報共有ができる組織づくりを依頼する。学年を越えて共有が必要な場合は、漏れなくチーフ会や部会で提案できるようにする。 ・進路支援部と連携し、生徒指導と進路指導の両輪で児童生徒を支援できるようにする。 ・運転手、添乗員と職員が連携できる体制づくりを行う。

学校関係者評価　（令和７年２月２７日実施）

意見・要望・評価等 ・卒業後の社会では、身だしなみを整えることや挨拶、返事などがきちんとできるかどうかが大切になってくる。学校でできていても、家庭ではできない、といったケースも多い。小学部の段階から少しずつ力をつけていくことが大切である。 ・学校で身につけ学んだことを、実際の生活の中で生かしていける力をつける必要がある。